

# タスクを用いたリスニングの効果

内 藤 徹

(2011 年 1 月 18 日受理)

## Effective Task Listening

NAITO, Tohru

キーワード key words :

タスク、リスニング、ICT (Task, Listening, ICT)

### 1. はじめに

近年 ICT を活用した英語教育が盛んになってきている。インターネットに接続したコンピュータや視聴覚機器を使うといろいろな利点がある。素早い検索だけでなく、辞書として、百科事典として調べることが容易である。そして、DVD や CD などを用いた教材の場合でも、聴覚のみならず視覚にも訴えるので、映像（や画像）が助けになって理解がし易くなる。また、そのような教材は注意力を喚起

するので、学習者の集中力は増し、理解が深まる。そして、その結果動機付けも高まると考えられる。

今回、DVD 映画のリスニングにタスクを用いた場合と用いない場合でどのように異なるのかを調べた。タスクを用いたリスニングとは、予め与えられた課題に対する答えを探すようにして聴く方法であるが、この方法がこれからの ICT を用いた英語教育の一つの示唆になれば幸いである。

### 2. 実践研究

#### 2. 1 文献および目的

Listening task の利点等について Rod Ellis (2003) は次のように述べている。Listening tasks provide an excellent means for measuring whether learners have acquired the feature in question. Further, listening tasks can be devised to facilitate the acquisition of the targeted feature. For example, the input can be 'modified' to enable learner to process the feature and thereby create the conditions for acquisition. Listening tasks, then, provide a means of investigating the effect of different kinds of input modification. For teachers, listening tasks provide the obvious starting point for a

task-based course designed for low-proficiency learners. Simple listening tasks can be devised that can be performed with zero competence in the L2 and that thus cater to the 'silent period', which characterizes the early stages of acquisition for some learners (Krashen 1981). They provide a non-threatening way of engaging beginner learners in meaning-centered activity and, thereby, of developing the proficiency that, later on, can be used in production tasks. Also, of course, like researchers, teachers can use listening tasks to present the students with input enriched with

specific features they wish to target.

今回用いたDVDの映画は Disney の *Cinderella* である。この映画を用いたのは、普通の精緻に聞き取る能力を向上させるためのリスニング (intensive listening) とは異なり、大量に聞き取る

リスニング (extensive listening) が可能だからである。そして、ただ聴くだけの授業ではなく、タスクを与えて大きなストーリーの中で聞き取る作業を行うタスクリスニングとした。

## 2. 2 仮説

映像を用いたリスニングでも、さらにタスクを用いた方が内容理解はより深まる。

## 2. 3 被験者内訳：

J 大学 A 組 54 名 B 組 19 名 計 73 名 (ほとんど女子)

F 大学 C 組 28 名 D 組 32 名 計 60 名 (ほとんど男子)

## 2. 4 分析方法 [Hatch(1982), 内藤(1996)]

平均 (MEAN)、標準偏差 (STANDARD DEVIATION=SD)

t-test [平均点の有意差検定]

$\chi^2$ -test [アンケート項目間の有意差検定]

両検定とも、有意水準は 5%(\*), 1%(\*\*), 0.1%(\*\*\*)

## 2. 5 結果および分析

A 組と C 組は 1 枚目のタスクシートで、映画を視聴しながら課題を行う。B 組と D 組は視聴後に課題を行う。

☆映画視聴前の英語の学力 (TOEIC 模試：100 点満点に換算)

Table 1 J 大学 総合 (Listening+Reading)

	A 組	B 組	t-test
Mean	36.3	40.0	t=1.726
s d	8.1	7.4	df=71
n	54	19	p<0.08 有意差なし

Table 2 F 大学 総合 (Listening+Reading)

	C 組	D 組	t-test
Mean	46.2	45.9	t=0.125
s d	8.5	9.9	df=58
n	28	32	p<1.0 有意差なし

Table 3 J 大学 Listening

	A 組	B 組	t-test
Mean	39.6	41.1	t=0.513
s d	10.6	11.4	df=71
n	54	19	p<0.7 有意差なし

Table 4 J 大学 Reading

	A 組	B 組	t-test
Mean	33.2	37.8	t=1.731
s d	9.8	9.9	df=71
n	54	19	p<0.1 有意差なし

Table 5 F 大学 Listening

	C 組	D 組	t-test
Mean	42.9	47.2	t=1.409
s d	10.6	12.4	df=58
n	28	32	p<0.2 有意差なし

Table 6 F 大学 Reading

	C 組	D 組	t-test
Mean	49.5	44.5	t=1.527
s d	12.6	12.3	df=58
n	28	32	p<0.2 有意差なし

# ☆映画視聴時

①は1枚目のタスクシート、②は2枚目のタスクシート：①と②は視聴している教材内容は同じであるが、設問は異なる。

Table 7 J 大学

①

	A 組	B 組	t-test
Mean	61.2	33.5	t=5.955
s d	18.4	13.2	df=71
n	54	19	***p<0.001 0.1%水準で有意差あり

Table 8 J 大学

②

	A 組	B 組	t-test
Mean	24.3	16.3	t=2.012
s d	16.4	8.1	df=71
n	54	19	*p<0.05 5%水準で有意差あり

Table 9 F 大学

①

	C 組	D 組	t-test
Mean	57.2	36.7	t=4.816
s d	15.3	16.9	df=58
n	28	32	***p<0.001 0.1%水準で有意差あり

Table 10 F 大学

②

	C 組	D 組	t-test
Mean	25.2	17.8	t=2.314
s d	14.8	8.1	df=40
n	28	32	*p<0.03 5%水準で有意差あり

Table 11 学習者へのアンケート

視聴覚機器やパソコン等を用いた授業について答えて下さい。

項目：楽しい、動機づけられる、分かり易い

a = 強く思う、b = 思う、c = 普通、d = 思わない、e = 全く思わない

上記の内容でアンケートを行った。各段階における数字はパーセントである。

J 大学は教員のみならず、学習者もネットに接続してあるパソコンを使用し、教材は DVD や CD を使って動画などをプロジェクターやモニターテレビで視聴できる環境の授業である。F 大学は、学習者はパソコンは使えないが、その他は J 大学と同じである。

J 大学 n=73

	a	b	c	d	e	$\chi^2$ -test
楽しい	10	46	43	1	0	各項目とも
動機づけられる	11	26	55	7	1	***p<0.001
分かり易い	13	25	54	8	0	0.1%水準で有意差あり

F 大学 n=60

	a	b	c	d	e	$\chi^2$ -test
楽しい	10	29	58	3	0	各項目とも
動機づけられる	3	28	52	14	3	***p<0.001
分かり易い	6	33	49	12	0	0.1%水準で有意差あり

被験者は J 大学生と F 大学生である。A 組と B 組は J 大学、C 組と D 組は F 大学である。

A 組と C 組は 1 枚目のタスクシート①を渡して、映画を視聴しながらそのシートの課題を行った。B 組と D 組は 1 枚目において映画を視聴している間にはシートを渡

さず、映画の視聴後にシートの課題を行った。これは、1 枚目のタスクを行いながら視聴するグループと、タスクをしないで視聴するグループの（点）差を見るためである。2 枚目②においては、全クラスにおいて、映画を視聴している間にはシートを渡さず、視聴後にシートを渡しその課題を行

った。これは、1枚目の視聴中にタスクがあったグループと視聴中にタスクがないグループで2枚目に（点）差がでるかどうかを見るためである。すなわち、1枚目の視聴中にタスクをするという前向きな姿勢が2枚目に影響があるかどうかを調べるためである。2枚目のチェックによって、どれだけ理解が深まっているかがわかる。

まず、実践をする前に比較検討をするクラス間に成績上の有意差があるかどうかを調べた。学力差をみるために TOEIC 模試 (Listening+Reading の総合) (100 点満点に換算) を用いた。J 大学の場合では A 組 (n=54) が mean 36.3、sd 8.1、B 組 (n=19) は mean 40.0、sd 7.4 で有意差はない ( $p<0.09$ ) [Table 1]。F 大学では C 組 (n=28) が mean 46.2、sd 8.5、D 組 (n=32) は mean 45.9、sd 9.9 で有意差はない ( $p<1.0$ ) [Table 2]。また、総合が2つのパートに分かれているので Listening と Reading についても調べた。これは、技能の学力バランスが均衡に保たれているとは限らないからである。J 大学の Listening は、A 組が mean 39.6、sd 10.6、B 組は mean 41.1、sd 11.4 で有意差なし ( $p<0.7$ ) [Table 3]。J 大学の Reading は、A 組が mean 33.2、sd 9.8、B 組は mean 37.8、sd 9.9 で有意差なし ( $p<0.1$ ) [Table 4]。F 大学の Listening は、C 組が mean 42.9、sd 10.6、D 組は mean 47.2、sd 12.4 で有意差なし ( $p<0.2$ ) [Table 5]。F 大学の Reading は、C 組が mean 49.5、sd 12.6、D 組は mean 44.5、sd 12.3 で有意差なし ( $p<0.2$ ) [Table 6]。従って、全ての比較するクラス間には点数上の有意差はなかった。

さて、実践研究データである。J 大学①の場合ある。A 組 (n=54) が mean 61.2、sd 18.4、B 組 (n=19) は mean 33.5、sd 13.2 で両クラス間には 0.1% 水準で有意差がある ( $***p<0.001$ ) [Table 7]。J 大学②の場合、A 組が mean 24.3、sd 16.4、B 組は

mean 16.3、sd 8.1 で両クラス間に 5% 水準で有意差がある。F 大学①の場合、C 組 (n=28) が mean 57.2、sd 15.3、D 組 (n=32) は mean 36.7、sd 16.9 で両クラス間には 0.1% 水準で有意差がある ( $***p<0.001$ ) [Table 7]。F 大学②の場合、C 組が mean 25.2、sd 14.8、D 組は mean 17.8、sd 8.1 で両クラス間に 5% 水準で有意差がある ( $*p<0.03$ ) [Table 10]。従って、J・F の両大学において、①の場合の映画を視聴しながらタスクを行う方が断然成績が良く、その後の②においても①のタスクをしながら視聴した方が内容理解は深まっているといえる。

最後に学習者へのアンケートである。J 大学は a と b をまとめて「楽しい」が 56% で、「動機づけられる（やる気がでる）」が 37%、「分かり易い」は 38%であった。F 大学も傾向は似ていて「楽しい」が 39%、「動機づけられる」が 31%、「分かり易い」は 39%であった。思わないのは d と e をまとめても少ない。付け加えると、F 大学は学習者がパソコンを使える環境にはなかったもので、若干その影響があるかもしれない。さて、総合的にみると、学習者は視聴覚機器などを用いた授業の方が「楽しく」「やる気が出て」「より分かり易い」と感じているといえる。 $\chi^2$  検定でも項目間に 0.1% 水準での有意差がみられる ( $***p<0.001$ )。

### 3. おわりに

リスニングにはいろいろな方法がある。映画を見せる場合、全体の中の一つの場面だけを取り出してきて、クローズ式のチェックをしたり、全文や部分を書き取らせたりすることはよくある。また、120 分以上の映画を全部見せることもある。しかし、そうすると時間もかかりチェックがしづらくなる。それ故に、視聴させるだけで終わってしまうことがしばしばある。今回、比較的短い Disney の

*Cinderella* (73mins.) を選び、90 分の授業時間内に視聴して、タスクも完成させるものとした。タスクリスニングは、前述のとおり「予め与えられた課題に対する答えを探すようにして聴く方法」で、今回、この方法が大量に聞き取るリスニン

グ (extensive listening) により効果が大きいことが支持された。ICTを活用した英語教育が盛んになる中、いろいろな方法が検討され、学習者がより積極的に学んでいく Active Learning をさらに考えていきたい。

#### 参考文献

- Cohen, Andrew D., *Testing Language Ability in the Classroom*, Newbury House Publishers, Inc. (1980)
- Ellis, Rod, *Task-based Language Learning and Teaching*, Oxford University Press, p.37. (2003)
- Hatch, Evelyn and Hossein Farhady, *Research Design and Statistics for Applied Linguistics*, Newbury House Publishers, Inc., pp. 192-214. (1982)
- Hinkel, Eli, *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning*, Routledge Taylor & Francis Group. (2005)
- Madsen, S. Harold, *Techniques in Testing*, Oxford University Press. (1983)
- 内藤 徹, 『新しい 英語教育ハンドブック』リーベル出版, pp.17-37. (1996)
- 内藤 徹, 「リスニングとリーディングの相関に関して」『中部地区英語教育学会紀要 17』 pp.7-12. (1987)
- 内藤 徹, 「VTRの効果とその限界－「音声」と「音声＋映像」の有意差より」『中部地区英語教育学会紀要 18』 pp.235-240. (1988)
- Richards, C. Jack and Schmidt, W. Richard, *Language and Communication*, Longman Group Limited. (1984)
- Richards, Jack, John Platt and Heidi Weber, *Longman Dictionary of Applied Linguistics*, Longman Group Limited. (1985)
- Rivers, M. Wilga, *Teaching Foreign-Language Skills*, The University of Chicago Press. (1981)
- Templeton, H., "A New Technique for Measuring Listening Comprehension", *ELT Journal*, 31, 4, July, 292-299. (1977)
- Underhill, Nic, *Testing Spoken Language: A handbook of oral testing techniques*, Cambridge University Press, p.23. (1989)
- Widdowson, H. G., *Teaching Language as Communication*, Oxford University Press. (1985)
- Widdowson, H. G., *Explorations in Applied Linguistics*, Oxford University Press. (1979)